



③我が家の宴会場(昭和50年)



①右側が我が家(昭和25年)



④我が人生、子育ての家(昭和54年)



②新居になる予定だった家?(昭和44年)

じよんさんのお楽しみ日記 68

「我が家の大変遷り解体」の巻

この度、思い出の我が家を解体することになりました。

昔は家も持つことは大変だったようで十人兄弟の末っ子だった父は結婚(昭和十六年)から八年間定住の地を得るまでに九回も家を変わったと言っていました。

さて、父の生家の「鵜の崎」は伊予市と砥部町の境で砥部一番の山奥ですが昭和二十四年に砥部のど真ん中大南商店街に移り住みました。(勇気もいったし、お金もかかっただろうし、よく決断したと思います)

①昭和二十五年に父と伯父が一緒に建てた長屋で我が家は二十坪余りでした。父は役場へ母は小さな商売(お茶、ガラス、プロパン販売)をしていました。

小さな家ではありませんでしたが親子仲良く六人が生活した思い出いっぱいの家です。②は昭和四十四年、妹が銀行に勤めていた関係で住宅金融公庫の申込み書を出したところ私まで当たってしまいました。(当時は既婚者又は結婚予定者しか申込みできませんでした。ちなみに私の奥さんの予定者は花子さんでした)そんな事で止むを得ず(ホント)建てたのですが一向に結婚相手が見つからず、結婚するまでの五年間、麻雀、酒宴の場所となりました。そんな事でこの家で新婚生活(?)を送ったのは僅か五年間でした。

③は昭和五十年に兄弟や友達が集まる場所として小さな宴会場を父の家に増築しました。お正月には兄弟や甥、姪が集まり友人も加わってそれは賑やかな新年会となりました。

④は昭和五十四年に実家向いに建てた家で家族六人の生活の場となりました。古くなりましたが今暫くの人生を楽しむ場にしたと思っています。

思い出の家が無くなるのは淋しいことですが、近隣にもご迷惑をかけますので更地にして次世代に渡したいと思っています。



中村剛志